

熊日サーキットゴルフ大会の変遷

「熊日サーキットゴルフ」は、現在の「熊本ゴルフ選手権熊日トーナメント」の前身で、平成3年までグロスの部、ネットの部に分かれて行っていた。その歩みを振り返ってみる（ゴルフ場名は当時）。

ゴルフの大衆化とともに、熊本でも各クラブが協力して県下のアマチュアゴルファーナンバーワンを決定してはどうかという機運が盛り上がり、昭和43年熊日が中心となって第1回熊本選手権熊日サーキットゴルフ大会の開催が決まった。当時、県内には中央カントリーゴルフクラブ、熊本ゴルフ倶楽部、阿蘇ゴルフ倶楽部、天草カントリークラブ、三井グリーンランドゴルフ場の5クラブがあるだけだった。

第1回大会には356人が参加、第1戦（中央）、第2戦（天草）で各18ホール、決勝は赤水または湯の谷で36ホールを回って、グロスとネットを同時に競うというものだった。汐待久記が通算298ストロークで初優勝、初代チャンピオンの座を獲得した。ネットは288.8のスコアで別当勝美。1回目の方法は50年まで続いた。46年の第4回大会で、西野俊一が3日間通算72ホールを288ストロークのパープレーで優勝、この記録が大会記録として残っている。47年から満60歳以上のシニア選手権も同時に開催。田中政男が90ストロークで第1回チャンピオンとなった。48年、中九州カントリークラブが加盟。49年、宇土ゴルフ倶楽部、50年に球磨カントリー倶楽部、熊本空港カントリークラブ、菊池高原カントリークラブ、トナアンレークカントリークラブ、高遊原カントリークラブの各クラブが参加。協賛クラブは一挙に12クラブとなった。

ゴルフ場の新設ブームとともにゴルフ人口も急増、50年には参加者も第1回大会の倍以上の865人となった。51年、さらに矢部ゴルフクラブ、肥後カントリークラブが参加。グロスとネットの同時開催は困難となり、グロスとシニアが第1戦熊本ゴルフ倶楽部、第2戦熊本空港カントリークラブ、ネットが第1戦肥後カントリークラブ、第2戦天草カントリークラブに分離して開催。競技もグロス、ネット、シニアの3部に出場者を分けることとなった。

51年大会で当時南関高校3年生の山本恒久が逆転で初優勝。これまで歴代チャンピオンは30代後半以上のベテランに限られていて、高校生チャンピオン誕生は大会関係者に衝撃を与えた。山本は54年、55年にも優勝、さらに57年から4連覇を成し遂げた。なお、63年にプロテストに合格、念願のプロ選手の仲間入りを果たした。

52年阿蘇東急ゴルフコース、53年人吉ゴルフ倶楽部、玉名カントリークラブ、グランドチャンピオンゴルフクラブ、54年水俣国際カントリークラブ、さらに55年菊池カントリー倶楽部が参加。協賛加盟クラブは20クラブに膨れ上がった。

54年からレディースの部も新設、参加者も900人を超えた。また、63年からはシニアの部と分けて70歳以上のグランドシニアの部を設けた。

なお、58年から始まった全国アマチュアゴルフ選手権大会に、サーキットゴルフ大会のグロスの部の上位3選手が出場。60年第3回大会で山本恒久が個人で初優勝を飾り、62年第5回大会では霍本謙一、田口保、山本恒久のメンバーで臨んだ熊本チームが団体初優勝。平成3年第9回大会は宮城県の富谷カントリークラブで行われ、熊本は霍本、田口、笠清也の布陣で4年ぶり2度目の団体V、個人でも霍本が優勝、団体、個人のダブル制覇を果たした。